

祭神 伊邪那美命

本社は元と熊野社と稱す、創立年代詳ならず、但し延喜式内社檢山神社なりと、新編武藏風土記に云く、「コノ社ヲ、土人檢山神ト唱へ、郡ノ惣鎮守ナリ、社地ハ松杉繁茂セル内ニ、檢ノ古木アリ、又社ノ南ニ續キ、二段計ノ御林ニモ、檢ノ古木多ク、其内、周徑一丈五六尺ニ及ベルアリ、社地ノ様イト舊クレバ、土人ノ唱フル如クニテ、延喜式神名帳ニ載ル所ノ檢山神社ナリヤ、外ニ據ハナシ、

と見えたり、郷名幡羅及原は、社名檢より出づと、檢山神社の所在に就ては、學者各見る所ありて、説を異にせるが如し、式社考は女沼村聖天宮を以て之に擬し、神社叢録及特選神名牒當社を以て檢山神社とせり、明治五年郷社に列す、本殿は拜殿、神門、社務所等にして、境内は貳千五百拾五坪(官有地第一種)あり。

境内神社

- 八坂神社 天満天神社 金刀比羅神社 怡母神社
- 伊奈利神社 手長神社 大物主神社 塞神社

例 祭 日 十一月一日

會計法適用
指定年月日

神饌幣帛料供進 明治四十年四月二日
氏子戸數 地發第二十九號ノ三
崇敬者員數 百四十六戸

○埼玉縣武藏國大里郡岡部村大字岡郷社

産島 議泰 神社

祭神 瓊々杵尊 木花之咲夜姫命

傳へ云ふ、景行天皇の御宇、日本武尊征東の後、當所を推して皇運の隆盛を祈願せられ、皇孫瓊々杵尊及同皇后木花咲夜姫命を奉齋せられたりと、年代未詳、本郡開拓に際し、其の事業容易ならざりしが、當社の靈驗に依り、功を奏し、爾後信仰日に加り、遂に舊榛澤郡の總鎮守とし、社頭の事郡中各村の負擔たりと、次いで天明三年淺間山噴火の際、又靈驗に頼り一村災を免かる等の事あり、歸依益篤し、明治の初無格社たりしが、二十九年郷社に昇格す、社殿は本殿、外宇、幣殿、拜殿、其他神樂殿等あり、拜殿は萬延元年の再建に依る、境内は千二百二十六坪(官有地第一種)古杉天を摩して晝尙暗し、本殿の右側神水湧出す、この水流て小沼を爲す、旱天にも未だ曾て涸ることなく、よく數千歩の田を潤す、里人稱して神水といふ、名實相協へり、因みに記す、當社々名の島護は、往古利根川暴漲し、常に南西島以下八嶋其災を被る、爲めに人民其の災を免かれんとし、當社を諸島の守護神とせるに依る、又産泰は安産守護の謂ひか、文久元年和宮殿下東下當社通過の際、社頭に榛澤郡總鎮守安産守護とありければ、容を正し給ひ、祭神木花咲夜姫命を遙拜あらせられしと承る。

境内神社 稻荷神社 三柱神社 神明社 琴平神社

例 祭 日 四月十九日

會計法適用 明治四十一年九月三十日
指定年月日 地發第四百七十六號

神饌幣帛料供進 明治四十年四月二日
氏子戸數 地發第二十九號ノ三
崇敬者員數 三十六戸